開催報告「日米ワークショップオプショナルツアー:東京理科大学実験棟見学」 Report on Optional Laboratory Tour at Tokyo University of Science

開催日時:2012年7月1日(日)14時30分から18時30分

開催場所:東京理科大学 火災科学研究センター実験棟

主催組織:東京理科大学 総合研究機構 研究センター部 火災科学研究センター

コーディネータ:大宮喜文 (理工学部建築学科・教授)

参加者一覧

ゲスト側: Dr. Ann Jeffers (Assistant professor, University of Michigan)

Dr. Chris Dicus (Professor, California Polytechnic State University)

Dr. Albert Simeoni (Associate professor, Worcester Polytechnic Institute)

Dr. Tom Fabian (UL)

Dr. Samuel Manzello (National Institute of Standards Technology)

ホスト側: 辻本 誠 (工学部第二部建築学科・教授, 国際火災科学研究科長)

関澤 愛 (総合研究機構 火災科学研究センター・教授)

池田 憲一(総合研究機構 火災科学研究センター・教授)

大宮 喜文(前掲)

水野 雅之 (総合研究機構 火災科学研究センター・講師)

棚池 裕 (総合研究機構 火災科学研究センター・COE 技術者)

野秋 政希 (総合研究機構 火災科学研究センター・COE 技術者)

沖永 誠治 (総合研究機構 火災科学研究センター・技術者)

赤津 薫 (国際火災科学研究科 火災科学専攻 博士後期課程)

佐々木克憲(国際火災科学研究科 火災科学専攻 博士後期課程)

篠崎 正美(国際火災科学研究科 火災科学専攻 博士後期課程)

申イチョル (国際火災科学研究科 火災科学専攻 博士後期課程)

長岡 勉 (国際火災科学研究科 火災科学専攻 博士後期課程)

柳橋 拓 (国際火災科学研究科 火災科学専攻 修士課程)

乃村英一朗(国際火災科学研究科 火災科学専攻 修士課程)

山本 弘樹 (理工学研究科 建築学専攻 修士課程)

14:50 Start meeting

大宮先生の司会の下, 辻本先生の挨拶に始まって, 参加者の自己紹介をまず行った。その後, 大宮先生から東京理科大学の概要, ならびに総合研究機構火災科学研究センターの歴史, 21世紀 COE プログラム, グローバル COE プログラムの経緯, 国際火災科学研究科のメンバー紹介, 火災科学研究センター実験棟並びに設置されている種々の設備の紹介についてスライドプレゼンテ

ーションが行われた。

続いて、関澤先生から 2011.3.11 の東日本大震災における湾での瓦礫火災について紹介があった。津波上に火災が起こってそれが流されている映像 (NHK のヘリコプターからの映像) をもとに、水上であっても瓦礫が燃焼することで津波火災という現象が起こったことについて説明があった。

15:30- Introduction of parent organization of participants from USA

アメリカからの参加者が所属する5組織について、それぞれ組織や教育体制などについての紹 介があった。ミシガン大学のジェファーズ先生は構造工学が専門で、研究は実験ではなく、数値 計算による架構解析などを行っているとのこと。また、ミシガン大学は公立大学とのこと。カリ フォルニア理工州立大学のディカス先生から、原野火災がキャンパス内で起こり、その時の状況 等を交えて大学での火災安全関係の取り組みについて説明があった。林学・自然資源学の専攻に おいて原野火災などを取り上げていること、防火工学の修士課程があること、都市や地域計画学 科等があることの説明があった。ウースター大学のシメオニ先生から、アメリカでは3つの大学 (WPI, Univ. of Maryland and CALPOL) において火災安全工学の教育が行われていることに 始まり、WPI での教育研究について説明があった。修士課程と博士課程において防火工学に関す る教育を行っている。また、CFD モデリング、火災現象や燃焼、防爆、消防士安全など様々な研 究を行っている。6m 角フード(5MW)や二階建てのシミュレーション、林野火災などの実験施 設が拡充されるとのこと。UL のファビアン博士から, UL の歴史や業務などについて説明があっ た。火災研究チームでは、複層住宅火災のテストやコーンカロリーから壁の燃焼性などについて 研究しているとの説明があった。NIST のマンツェロ博士から、昨年日米ワークショップのキッ クオフを企画したこと、NIST は非常に大規模な実験施設(20MW フード)が整っていること、 NIST ではゲストプログラムなどがあって鈴木さやかさんもそのシステムを利用して働いている ことなどの説明があった。

発表の後、WPIで実施しているディスタンスラーニングやフルスケールテストの国際協力の下での実施などについて議論を行った。



Dr. Ann Jeffers (University of Michigan)



(California Polytechnic State University)

FPE at WPI Formal degree Program since 1979, multidisciplinary approach of fire science » MS - 30 Credits (thesis/no thesis), PhD - 90 Credits, BS/MS (two degrees in 5 years), Corporate and Professional Education > ADLN since 1993: Students across the US and 40 countries, 40% of enrollment » Research on: Fire and materials, combustion and explosion protection, Firefighter safety and policy, policy and risk, building fire safety systems and wildland fires > Sponsored research: NSF, NIST, DHS, NASA, USDA-FS, SFPE...

> New facilities for teaching and research in October 2012

www.wpi.edu/academics/fpe?

Dr. Albert Simeoni

(Worcester Polytechnic Institute)

Building Materials, Life Safety, & Security Industries



Dr. Tom Fabian

(UL)



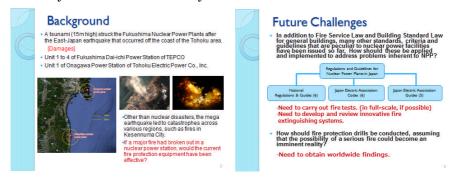
(National Institute of Standards Technology)

Dr. Samuel Manzello

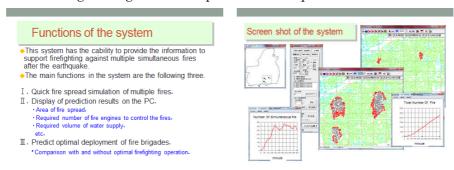
会議中の様子

引き続き,東京理科大学大学院国際火災科学研究科火災科学専攻の博士後期課程の学生 (D1) による研究発表会を実施した。

Kaoru Akatsu: Study on Fire Protection System for Nuclear Power Station Facilities in Japan



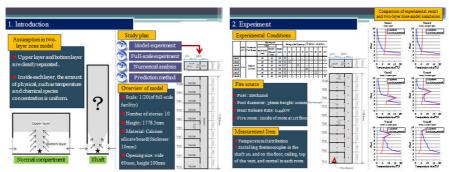
Katsunori Sasaki: Research and Development of Quick Prediction System for Optimal Deployment of Fire Brigades against Multiple Post-earthquake Fires



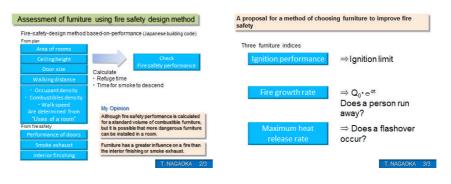
Masami Shinohara: Fire Protection Systems for Evacuation Plans for Occupants with Disabilities



Yi-Chul Shin: Smoke Behavior in Shaft



Tsutomu Nagaoka: Assessment of furniture using fire safety design method



実験棟見学とデモンストレーションの様子









ウエルカムパーティの様子







参加者の集合写真

以上

Masayuki Mizuno (文責:水野雅之)